

客衆肝照子

完

五格書

18
1963
22



夕
㊦



猩猩

能言不離禽獸鶴市雖不

異中

車素非人矣頃山東京傳

寫郭中遊人聲音行移輯為一

卷殆迫於真矣蓋三樂一瓢及

白兔富士藏如在等不能出其

右矣今也欲上梓賣于世焉於

口
二

1963

是乎鷄鳩為之閉紫猫兒為之
止踊管在既有役者冰面鏡之
作今又磨之而仕客衆肝膽鏡
爾

屍燒猿人序



雨あめ其その降ふり初はつ冬ふゆ一いつ序しよ
年とし一いつ由よし一いつ序しよ
後のち水みづ不ふ定さだめめ世よ々々
古ふる川かわのの瘴くさ病びやうとと見みるる

二二

京傳が振舞の影
さくらさくらさくら
人形めくさく種あり
通ぬ業のまゝあり

ちんちん
梅子
暖病
お月

ヨシ

さ〜ア

江戸浮世師

富田藏序



自叙

喜あはれきくうらやまあつらふつら〜おひ〜梅うめは咲さく〜あぢあ
あぢあぢあぢあ〜梅うめき梅うめ中なかつはさ〜あぢあ〜あぢあ
と〜うけと〜あぢあ〜あぢあ〜あぢあ〜あぢあ〜
あ〜長なが周しゅうはは〜く日ひのあれ〜あぢあ〜あぢあ〜あぢあ〜
娘むすめのあけあのあれ〜あぢああぢあのあぢああぢあ着き〜あぢああぢあのあぢああぢあのあぢああぢあ
〜あぢああぢあ〜あぢああぢあ〜あぢああぢあ〜あぢああぢあ〜あぢああぢあ〜
あぢああぢあのあぢああぢあ〜あぢああぢあ〜あぢああぢあ〜あぢああぢあ〜あぢああぢあ〜

蓄新を呼ぶ。柏や人跡と方の格子へ出て何言、聞
 清櫓の調子、おろろ、絃桐よ合せ七軒の瓦家根、ささ
 音構をまもる。衣紋隆よ、思飯の柿を移し松もやの
 鞠場、ちよと玉筑、堤も、中法町の着未屋、刈穂の門
 次とのどねに控門、駕籠をのぞきよ、ささ、ささ、
 藝妓のやれ、賃睡襦の方、妙よ、ふく、林、油の香、
 大梳焼の匂いと散じ、揚屋町の湯明日休、新町の薬湯
 今日現金、存続、出資不仕、商人、二階へ登る、ささ、ささ、

身まひの年中、紅、染、紗、糸、の如く、髪、結、る、や、の
 る、ふ、さ、か、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 子の炭俵、目、寒、色、男、雛、妓、を、揚、中、所、を、ま、め、ん
 おと、思、猫、兒、廊、下、を、窺、く、贈、物、を、引、之、と、欲、ぬ、その
 さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 ら、む、じ、魚、二、階、の、め、り、す、松、が、根、ト、ま、ぐ、内、所、の、お、り、さ、次、判
 の、り、遠、あ、く、ん、艾、白、小、麻、凡、の、うち、か、あ、り、泣、洞、房、の、ら、さ、か、り、
 枚、著、お、れ、小、便、所、に、捨、て、も、棋、の、ほ、ろ、づ、き、煙、盆、子、残、る、廊、下、の

物々々身身子しどき、男来つて油とつてふけ返すかや
梅こけもわむさうふこ下り茶立虫さく摩子の腰田際のとあく
声怪のあつつけハ夢への睦言よ。火の要をさるせすまふ
と後梅のちの人の青い五町よさへくる顔の油と落さる
荒爛の帝さのゆり。野痛と治さる髪く生塔をさふ待
人をつふ鬼文りゆい。いやあささるの呪りも。五杯のは一杯の
袖の梅。百止の花一輪の寂中の月。吉系。袖見諸國名系上箇
半せん急控の目し。耳露梅ア子イ湯平ニそは。みのやのそは

山をなほなほの豆磨治舟房がきり茶立。梅つふそのなまきり。
こも那が占ハ真傷からわれし。つらやのさるつらさやら
ら白井いづやの白水子さきこころいづあさる。お月見まふの
芋七外もらけい。葛き曲のさきひささき。寒見糸の良布さき
盆の上さき。お向の野生し。いづも。伏見町のぬけ表さき。
おらん箱さき。ちんと形ハはさるる。あやまら。あまあ。いづさき。
ゆらさき。あやらさき。あやらさき。人物さき。お龍仁の。お節。おを
とよぶあ。の。いづも。あ。かへ。あ。あ。あ。あ。あ。

手くや

扇
の
流

三

仕着
振袖出

振新
名代

出に世帯のさけをかくるにゆきつらきとてきどりまふかの
かたがらを振りくまゆけらせ有りまらてまよといせりぬ
乃時ハかすをあらわしたるのかことともよしをあらりせたりの目を
かんとひらり
ぬむさひ入
よし
きん
ごも
な
そ
ま
い
ん
中
む
か
の
あ
ら
す
と
ぬ
と
ま
き
に



日せり殿

とさやうさんおあしんごおのせす。今とさんいよく
おあしんご。今とさんいよくおあしんごおのせす
う。のちふおあしんごおのせす。今とさんいよく
さんおあしんごおのせす。今とさんいよくおあしんご
おあしんごおのせす。今とさんいよくおあしんご
おあしんごおのせす。今とさんいよくおあしんご
おあしんごおのせす。今とさんいよくおあしんご

禰若出

おあしん 中座



出てまゝいよくおあしんごおのせす。今とさんいよく
おあしんご。今とさんいよくおあしんごおのせす
う。のちふおあしんごおのせす。今とさんいよく
さんおあしんごおのせす。今とさんいよくおあしんご
おあしんごおのせす。今とさんいよくおあしんご
おあしんごおのせす。今とさんいよくおあしんご
おあしんごおのせす。今とさんいよくおあしんご

日せりぬ

同作のちてこの若松さまよりワリ 扱おしぐの扱ひのち
 扱をれ入のきこらうとすししもわいぬと扱のちあふに
 どのもとのおあぬてと扱のちいふと夜ハ大いせんトあふ
 しょうくかおまこにわらドや 扱のちのしょうをいひあ
 イヤウあふふてす。ケル^{何某}かあらいたばよとイワウいね
 扱^イまよいの。こ五町く。扱こらうがやがト申と扱のち
 扱あすまやイ

かひや

商人 山中屋



日せいの娘

らあひしそらるるヨウ。下駄のたががかりるヨウ。コウ 孫やうい
山のまゆくのたまふい。まゆくのまゆくのまゆく。まゆくのまゆくをひせ
是る孫が。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わがやうや。孫やうや。わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく

こころの娘

物も三人の娘をいふ。わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく
わく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆくのまゆく。まゆく



か
町

日せりぬ

このとや先ころころ。地おんよ今のさすすころわら
あつたいふはらら。地梅持やめい丁子の風はらら
ら。素もとちのころ。ちすけふころらんとはま
はせ。ころも。ちよんと。ころをころころ
らんま。素も。モウ。何ん町ころころころ
や。ちんのま。ちの事ころころ。ちんごぞ

跋

あーびもれ山やま東ひがしとちんハまの

あねねあらららちねやなぼ

ふあいらところころころ

らりふちくわづ海母うま生なれ
出いて京傳とよぶよふふと其そ名なを
都みやこままるるりりつつええんと
ししるるれれこころろちちななるるかかやや三三めめららの

驚おどろるる店たもも心こころああららるるももここバおほ大ほ棧さん橋む
一いつつくくちちののさされれ數かず成なりちちららに
水すい道どう尻しり乃の火ひれれ見み米こめ田でととたたら
んん乃のののななとと見みちちららめめハは柳やなぎ屋や

もやしらさき闇ヤミの夜とよき
 らぢぢのゆふ乃夜よの
 あかきあかきき作ハ所謂あかめ忍日
しんじつ
 八日はつじつなるん 名川戸
 野夕述

天明 狂詩選きやうしせん 狂歌きやうか 評判ひやうはん 詠優風えいゆうふう
四方先生著 全一冊 作者自作 全二冊
 丙午 小紋新法こもんしんぽう 客衆肝照子きやくしゆかんしやうし
山東京傳作 全一冊 作者同上 全一冊
 新 天明新鐫あつめいしんけん 東都曲狂歌文庫とうとくまがらうかぶんく
あつめいしんけん 五拾人一首 出村名之作者肖像 全一冊
 版 五拾人一首

天明六歲丙午正月吉日
 御江戸通油町南側
 耕書堂
 葛屋重三郎

